

2015年度SNE学会 ラウンドテーブル 話題提供②

## 滋賀大キッズカレッジの 漢字指導の特徴

NPO法人 滋賀大キッズカレッジ  
堀口 真理子

### 学習室の概要

- ・小学1年生から高校3年生
- ・週1回、または月2回の学習室
- ・学習内容は漢字、英語など、学習室によって異なる。
- ・基本的には1対1の個別対応
- ・来ている子どもは学習障害があり、自閉症スペクトラム障害を併存している子どもが半数以上。

### キッズカレッジの指導(SKMメソッド)

#### 「安心と自尊心」がキーワード

- ・失敗してもいいという安心と間違っても大丈夫という自尊心。安心して自分自身を出せる場。
- ・子どもが間違っても指摘しない。
- ・子ども自身が間違いに気がつくまで見守る。
- ・子どもがどのように考え、どう問題に取り組んだのか、子どもの思考を大切にする(大人の考え方を押しつけない)。子どもが自ら学びを発見することを大切にする。
- ・考える力、考え方(方略)を見つけ、伸ばす

- ・子どものペースを大切にする。完全な個別指導。  
強制はしない。「イヤ」「やりたくない」は認める。それだけしんどいということ。
- ・多感覚指導。機械的繰り返し練習はしない。
- ・言葉ではなくイメージ的な思考、直感をのばす
- ・学年に関係なく、子どものつまづいているところから学習を開始する。
- ・頑張っているとき程、休憩をとる。  
頑張り=集中=緊張
- ・情報をシンプルに。一度にたくさんのをしない(混乱のもと)。

### 実際の指導の流れ

1. おはなし
2. リラックス
3. 本を読む
4. 粘土でイメージを作る

言葉の意味を頭の中にイメージする。それを粘土で作る。視覚的かつ直感的に意味を理解する。



### 5. 粘土ひもで文字を作る



### 6. 書字

書くのは2回だけ。多くても3回まで。

- ・粘土でイメージ(言葉の意味)を作る過程を一番大切にしている。子どもの考え方を大切にしている。
- ・粘土ひもで文字を作る際は、分からなかったり不安な時はすぐに辞書で調べ確認する。
- ・指導の中でアスペルガータイプはどんどん自分を出していく(個性全開)。

### 指導を通して 一子どもたちの変化一

保護者アンケートから

- ・マンガにすら興味を持たなかったが、図書館や本屋に連れて行ってほしいようになった(小6)
- ・自分から本を読むようになった。
- ・国語が好きと言うようになった。
- ・書くことを嫌がらなくなった。
- ・学校の課題を自分からするようになった。
- ・整ったしっかりした字を書けるようになった。

### 子どもの変化(学習面以外)

- ・「死にたい」と言わなくなった(小3)
- ・明るくなりよく喋るようになった。語彙が増えた。(小3)
- ・学校へ行けるようになった。
- ・不登校状態は続いているが、キッズだけは無遅刻無欠席！休みたいたと言わない。
- ・話の合う友達や仲の良い友達ができた。
- ・人が変わったように落ち着いた。

### 事例： Aさん

- ・現在小学6年生。通っている学校の教師からキッズを紹介され来室。
- ・4歳の時、保育園へ登園出来なくなる。相談機関で広汎性発達障害と診断される。何かあるとキレる、泣きわめく、服を着られない、家から出られない、偏食(1年半程塩おむすびしか食べられない)等、二次障害が出てくる。  
話しかけても返事をしない。指示を受けることが出来ない。
- ・入学後も不登校。放課後に少し顔を出す、学校へ行った日は家で暴れる。

### キッズでの様子

- ・小学1年生末に平仮名单語がスラスラ読めない。
- ・平仮名、数字ともに鏡文字が多い。
- ・音韻意識での躓きあり(抹消、逆唱課題での躓き)
- ・おしゃべりは上手で難しい単語なども知っている。
- ・小学2年生から学習室に来る。学習室では自分中心。粘土課題では自分の作りたい物を作る、指導者に自分の関心のある話を聞いてもらう(神話、宇宙や科学の知識を一方的に話す)。
- ・検査の際には「しつれいします！」と逃走。たまたま開催していた科学イベントに飛び入り参加し、プランクトンや化石に興味をもち大学生に質問する。



## キッズでの指導方針

### 「安心と自尊心」

- ・子ども自身が安心して自分をだせることを大切に。
- ・苦手なこと、イヤなことは無理にしなくていい。
- ・子どものペースに合わせる。
- ・学習に入れない時は子どものしたいことを一緒にする。

## 変化

- ・苦手な検査も逃げ出すことなく、「しよーがないなー」と取り組みるようになってきた。書くべき字は分かっているがその字が思い出せない(ほうせき→いっていう字やんな! ?等)。
- ・小学3年後半から学習室内の他児との交流が増え、一緒に相談して遊ぶ姿が出てきた。
- ・小学4年秋には、学習に入れるようになる。こちらが提示した課題を作ったり、それまで拒否していたリラックスも一緒に指示に合わせて行う事ができるようになる。(人に合わせる事が出来るように)
- ・相手に合わせて話題を選んで話す姿が出てきた。
- ・「初対面の人と話すのにはテクニックがいる」や「友達と遊ぶ際、2人で行動するよりも3人で行動する方が難しい。2対1になりやすかったり、話題を両方に合わせないといけない」等、周りの空気を読んでいる発言をするように。

## まとめ 実践から

- ・「安心と自尊心」をキーワードにした指導を行うことで、いったんは自分を全開にし、興味関心の偏りや独特の世界観等の特徴が全面に出る。そうした子どもたちはその時期を乗り越えると急激に発達し変化した姿を見せてくれるようになる。
- ・「安心と自尊心」をベースに子どもたち自身が自分の特徴や困難と向き合い、自身で考え乗り越えようとする力をつけていってくれるのではないだろうか。